

取材先	下関空襲・終戦展実行委員会	
企画名	下関空襲を切り撮った写真家 上垣内茂夫さんは慰問カメラマンだった	
備考		
取材日	2021年8月10日(火)天候[晴れ] [11:00~11:30]	取材地 しものせき市民活動センター

レポート

戦後76年の節目に合わせ、「下関空襲・終戦展実行委員会」の主催による『下関空襲終戦展』が8月11日～18日まで当センターで開催されました。平成17年（終戦60周年）の夏より毎回テーマを変えて企画展をされていますが、17回目のテーマは、下関空襲で焼け野原となった中心市街地を撮影したことで知られ、また慰問カメラマンとして活動されていた上垣内茂夫氏に焦点をあてられたものでした。市内でカメラ店を営み、太平洋戦争中は慰問カメラマンとして、出征兵士に送る故郷の農村や家族の日常の一コマなどを撮影し、会場には、空襲直後の写真だけでなく、残されていた旧日本海軍旗がついた風車を掲げる子どもなどの慰問写真も並んでいました。

上垣内氏が21歳当時、陸軍歩兵学校に向かう途中の横浜駅で関東大震災に遭遇し、後に被災地の臨場感を伝えられなかった経験から危険を冒してまでも、終戦間際の空襲で焦土と化した下関を撮影していくことに繋がったとみられています。

下関市は明治時代から要塞砲兵大隊が置かれ、軍事上の重要な役割を担っていた為、太平洋戦争では、1944年6月ごろから焼夷弾による空襲の被害を受け、1945年6月29日、7月2日の空襲により、市街地ほぼ全てを焼き尽くされ、壊滅的な惨状となり、324人が犠牲となりました。井手代表のお話を伺いながら、展示を拝見し背景を感じることができ、より一層当時の様子を体感する事ができました。

その時代を生きた歴史を後世へ語り継ぎたいという井手代表の想いの詰まった展示会へ来年開催の折には足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

状況写真



会期中の様子



出征した兵士に送る
日常写真の数々



下関空襲で焼け野原
となった中心市街地



瀬谷さん 井手代表 大濱さん



慰問袋